埼玉県立文書館
外務省外交史料館
共催展示

地図
アラカルト
世界と地域

平成26年 1月4日(土)～2月23日(日)

主催：埼玉県立文書館・外務省外交史料館

会場：埼玉県立文書館 （さいたま市浦和区高砂4-3-18）

埼玉県のマスコット コバトン

彩の国 埼玉県

開催にあたって

埼玉県立文書館と外務省外交史料館は、このたび共催で「地図アラカルト　世界と地域」展を開催いたします。

埼玉県立文書館は、これまで行政文書の他に埼玉県の歴史を伝える数多くの古文書や貴重な写真・地図等を収集・保存・公開してまいりました。また外交史料館は、わが国の外交において歴史的価値のある記録文書を保存管理し、利用に供するとともに、外交史料の編さんを行ってまいりました。

多くの方々が国や地方自治体の様々な公文書に触れる機会を提供することは、公文書館の重要な使命であり、今回、共催展示会を実現する運びとなったことは、両館にとり大きな喜びとするところです。なお、外交史料館が地方自治体の公文書館と共催展示会を行うのは今回が初めての試みです。

今回の展示では「地図」をメーンテーマとし、埼玉県立文書館が所蔵する地域を中心とした地図と、外交史料館が所蔵する幕末以降の日本外交に関わる地図を展示いたします。

両館が所蔵する「世界」と「地域」の多様な地図資料を通じて、地図の面白さに触れ、歴史への関心を高めていただくとともに、歴史的に重要な文書を保存し利用に供する公文書館の活動について、本展示会が皆様のご理解を深めていただく機会となれば幸いです。

平成２６年　１月　４日

埼　玉　県　立　文　書　館
外　務　省　外　交　史　料　館

外交史料館×地図

～日本と世界を結ぶ地図～

外務省外交史料館は、幕末以来の日本の外交活動に関する数多くの史料を所蔵しており、その中には日本と世界との交流を理解する上で歴史的に価値の高い地図資料が含まれています。これらの地図を見ると、日本外交史の重要な場面に触れることができます。

たとえば、幕末時代に開国によって日本が諸外国と新しい関係を築き上げた様子を垣間見ることができますし、日清講和条約によって遼東半島のどの部分が日本へ割譲されたのかを知ることもできます。また、占領期の日本が国際社会への復帰を果たしたサンフランシスコ講和会議の関係資料の中にも地図が残されていますし、幕末期に日本が初めて参加した万国博覧会であるパリ万博の会場図もあります。

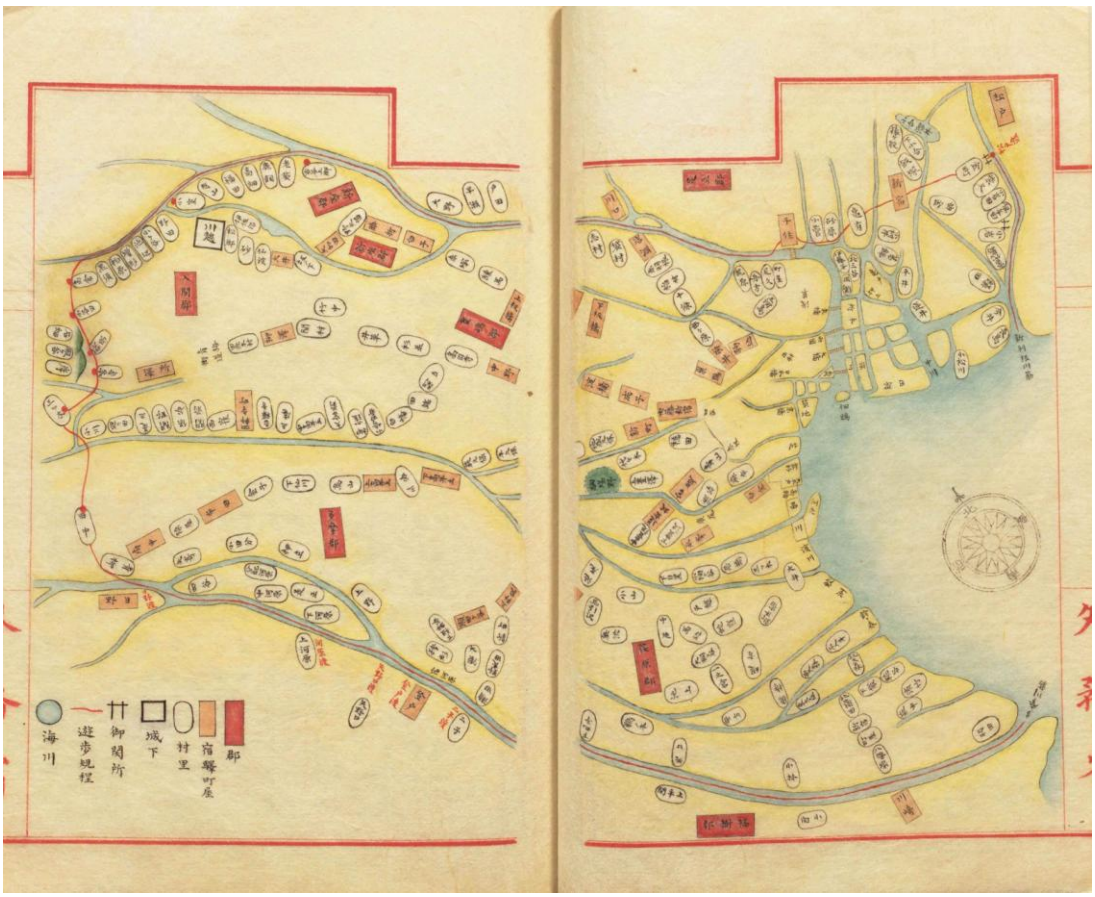
外務省外交史料館の所蔵史料による展示前半では、このような日本と世界の交流を示す地図資料を、4つのコーナーによってご紹介します。

Ⅰ　開国

嘉永6年6月（1853年7月）、アメリカより東インド艦隊司令長官ペリー（Matew Calbraith Perry）率いる艦隊が浦賀に来航し、鎖国制度をとる日本に開国を促しました。翌年、江戸幕府はアメリカとの間に日米和親条約を結び、下田・箱館の開港、アメリカ船舶への薪・水・石炭その他を補給すること等を規定しました。さらに、安政5年6月（1858年7月）には、日米修好通商条約が調印されました。これにより、アメリカ公使の江戸駐在、江戸・大阪開市（外国人の居留を許可すること）、神奈川（横浜）などの開港、自由貿易、片務的領事裁判の承認、日本の関税を条約で定めること（「関税自主権の喪失」）等が規定されました。

展示史料Ⅰ-2「江戸在留外国人遊歩規程下調図」は、江戸開市の際に、外国人が自由に行動できる（＝遊歩）範囲を幕府が検討し作成した地図です。外国人と日本人の摩擦を防ぐため、外国人は築地に居留し、朱線の範囲内を自由に行動できるものとしました。現在の埼玉県では、川越市、所沢市等がこの範囲に含まれています。なお、幕末の動乱

のため、江戸開市は延期され、明治元年 11 月 19 日（1869 年 1 月 1 日）、明治政府により東京開市が実施されました。また、明治 3 年に「東京居留外国人遊歩規程」が改めて制定されました（範囲は幕府が定めた範囲とほぼ同じ）。遊歩規程は、明治 27 年の条約改正により廃止されるまで適用されました（改正条約は明治 32 年に発効）。



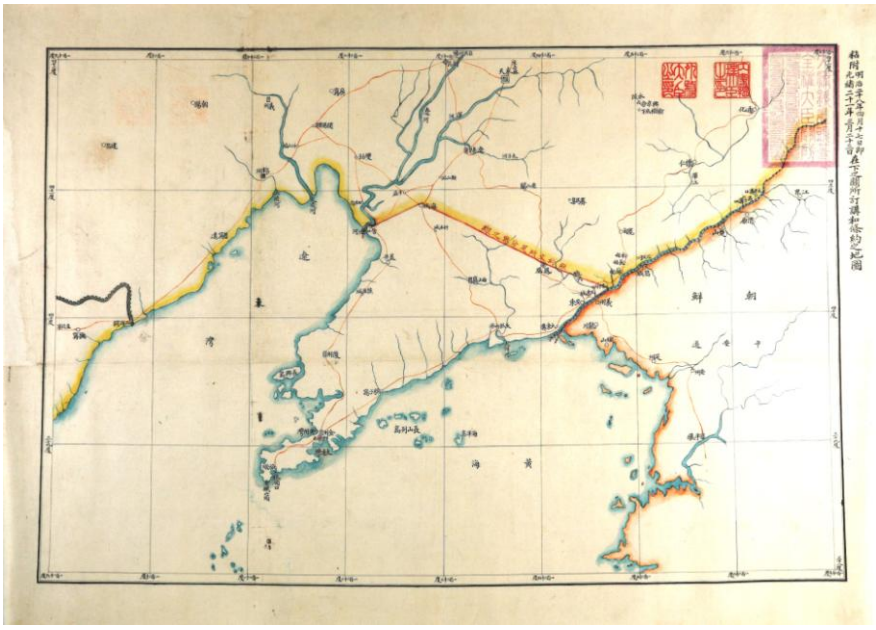
展示史料Ⅰ-2　江戸在留外国人遊歩規程下調図

Ⅱ　日清講和条約

明治 27 年（1894 年）、日清戦争が勃発しました。戦局は日本に優勢で、翌年、下関において講和会議が開かれ、同年 4 月 17 日、日本全権伊藤博文・陸奥宗光と清国全権李鴻章との間で日清講和条約（下関条約）が調印されました。これにより、清国は朝鮮の独立を認め、日本に遼東半島、台湾・澎湖諸島を割譲し、賠償金 2 億両を支払うことになりました。

展示史料Ⅱ-2 は日清講和条約附属地図で、清国が日本に割譲する遼東半島の地域を示したものです。「照約文所定分解之線」と書かれている朱線の南側が割譲地域です。地図右上部には、日本側総理大臣（伊藤博文）、外務大臣（陸奥宗光）の印、清国側欽差頭等全権大臣（李鴻章）の印が押されています。

しかし、条約調印後、日本の遼東半島領有は極東平和の障害となるという理由により、ロシア・ドイツ・フランスの三国が遼東半島の返還を日本に勧告しました（三国干渉）。ロシアとの対立深化を避けるため、日本はこの勧告を受け入れ、同年 11 月、清国との間で遼東半島還付条約に調印し、還付補償金 3 千万両と引き換えに遼東半島を清国に返還しました。

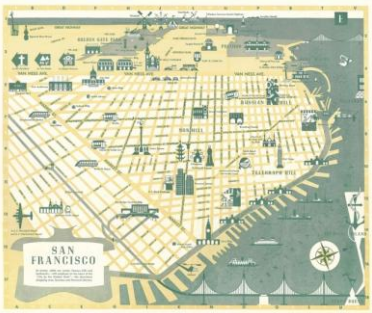


展示史料Ⅱ-2　日清講和条約附属地図（遼東半島地図）

Ⅲ　サンフランシスコ講和会議

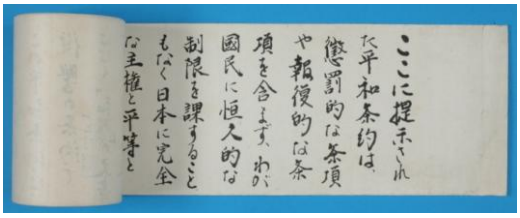
昭和 26 年（1951 年）9 月 4 日、サンフランシスコのオペラハウスで 52 ヶ国が参加し、対日平和会議が開催されました。そして、9 月 8 日、ソ連などを除く 49 ヶ国の全権が対日平和条約に調印しました。本条約は、翌 27 年 4 月に発効し、日本は独立を回復しました。

展示史料Ⅲ-3 は、吉田茂（よしだしげる）全権の私設秘書として講和会議に同行した麻生和子（あそうかずこ）氏（吉田茂の娘、麻生太郎（あそうたろう）元首相の母）が講和会議の際に持ち帰ったサンフランシスコの地図です。



展示史料Ⅲ-3
サンフランシスコ地図

展示史料Ⅲ-1 は、9 月 7 日に吉田全権が行った条約受諾演説の原稿です。演説直前まで推敲し、数人で浄書して貼り合わせたため、巻物のように見えます。外国人記者はまるで「トイレットペーパー」のようだと評しました。また、展示史料Ⅲ-2 の硯箱は吉田茂が携行したものです。



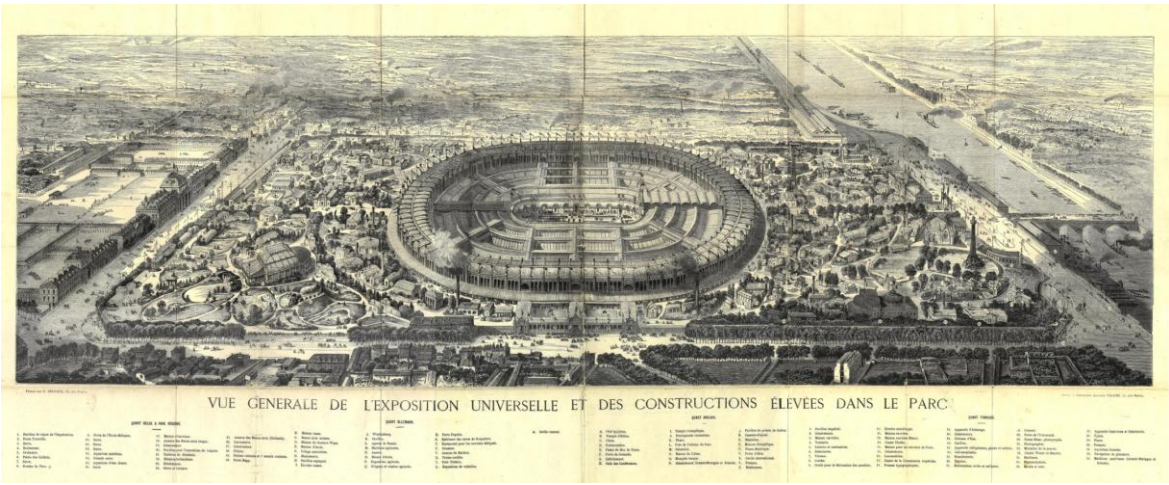
展示史料Ⅲ-1　対日平和条約受諾演説の原稿

展示史料Ⅲ-2　硯箱

Ⅳ　パリ万国博覧会

慶応３年２月（1867 年４月）から、パリで万国博覧会が開かれました。この万博に日本は初めて公式に参加・出品しました。幕府は、軍事・経済面で支援を受けていたフランスの駐日公使ロッシュ（Léon Roches）の勧めにより、万博に参加し、将軍徳川慶喜（とくがわよしのぶ）の名代として、慶喜の弟にあたる徳川昭武（とくがわあきたけ）（当時 14 歳）を派遣しました。幕府は各藩にもパリ万博への参加を奨励しており、薩摩・佐賀の両藩が出品を決めました。薩摩藩は、幕府とは無関係の立場で出品したことを現地の新聞を通じて宣伝するとともに、独自の勲章を作成して配付するなど、同藩が独立政府であることをアピールしましたが、これに対し、幕府側は有効な手を打つことができませんでした。大政奉還によって徳川の時代が終わるのは、この直後の慶応３年 10 月（1867 年 11 月）のことでした。

展示史料Ⅳは、フランス側が外国奉行の川勝近江守広道（かわかつおうみのかみひろみち）に贈った博覧会場全図です。中央にあるドーム状の建物がメインの展示会場で、中央の温室庭園を囲んで７つの回廊が同心円状に広がる構造をしていました。また、メイン会場の外周には、参加各国のパビリオン、水族館、レストランなどが立ち並び、人気を博しました。本博覧会は、出品者６万人、動員数 680 万人とも言われ、大成功を収めました。



展示史料Ⅳ　パリ万国博覧会　博覧会場全図

埼玉県立文書館×地図

～地域と世界を結ぶ地図～

埼玉県立文書館は、埼玉県地域の記録資料保存利用機関（アーカイブズ）です。しかしながら、地域に残される資料は、その地域に関するものとは限りません。地域に暮らす人々や地域で活動する団体は、常に地域の外に関心を寄せ、その情報を獲得しようと努めていました。その結果として、地域には地域の内外を問わない多くの地図資料が残されてきました。それは広く世界に及ぶ「世界と地域」の地図資料です。

たとえば、近世も後期になると、村方文書のなかにも海外情報を伝える書籍などがみられるようになります。視覚的に地理的知識を伝える地図資料は殊に大事にされたものと思われます。一方、東アジア地域への進出を図る欧米列強にとっても、その地理情報は不可欠なものであり、シーボルトやペリーらによる日本の地理知識が世界で流布しました。

そのペリーによる開国以降、世界から入ってきた新知識が日本の近代国家形成のなかで具体的な形となっていきます。地図作製の技術も近代測量技術の導入等により革新され、地図は諸制度を支える基礎的資料として普及していきました。地租改正や河川法・道路法などの近代制度形成に歩を合わせ、多くの公的な地図が地域で作成され使われるようになります。一方で、鉄道をはじめとする新たな交通・通信技術は、人々の活動と関心の範囲をますます広げ、民間からも多くの地図が生み出され、地域の人々に愛用されました。

日清・日露という戦役を経て、それは東アジア地域へと広がっていきました。地図は外交と戦争においては機密性の高い重要資料である一方、その戦果を広く国民に伝えるメディアとして地域に伝わり残されました。そして昭和 20 年代、戦災復興という国と地域を挙げての一大事業においても、地図や空中写真が必須の資料であったことは言うまでもありません。

埼玉県立文書館の収蔵資料による展示後半では、以上のような「世界と地域」を描く地域の地図資料を、6 つのコーナーによってご紹介します。

Ⅰ　異国と地図

享保 5 年（1720 年）、八代将軍徳川吉宗はキリスト教以外の洋書輸入を解禁しました。これにより、多くの外国文化が中国やオランダを通して伝えられました。

なかでも、中国で活動していたイエズス会宣教師マテオ・リッチ（1552～1610）が、中国人地理学者の李之藻（1565～1630）とともに刊行した「坤輿万国全図」は、解禁後の日本に大きく影響を与えました。

写真の「万国山海輿地全図」（井上家 1096）は、地理学者の長久保赤水（1717～1801）が作成した「地球万国山海輿地全図」をもとに、庶民に向けて弘化 4 年（1847 年）に出版されました。赤水は、リッチの図を原図に描いたと言われています。

万国山海輿地全図（井上家 1096）

Ⅱ　黒船と地図

嘉永 6 年（1853 年）6 月 3 日、アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー（1794～1858）は軍艦 4 隻を率いて浦賀に現われ、東京湾を測量しています。来航目的の 1 つは、日本列島を測量することでした。ペリーは 3 隻による三角測量を行い、海岸線を測量しました。

［嘉永六年渡来黒船図］（嘉永 6 年 7 月写）
（八塩家 1951）

「［嘉永六年渡来黒船図］」（八塩家 1951）は、その来航したときの様子を描いたものです。また、「北亜墨利加合衆国測量船より差出候横文字和解（久世大和守殿御渡）」（池田氏収集安部家 24-2）は、安政 2 年（1855 年）にアメリカ北太平洋測量艦隊の司令長官ジョン・ロジャーズ（1812～82）がヴィンセンス号で来航した際に、日本国執権宛に出した書状の日本語訳（和解）です。

Ⅲ　近代化と地図

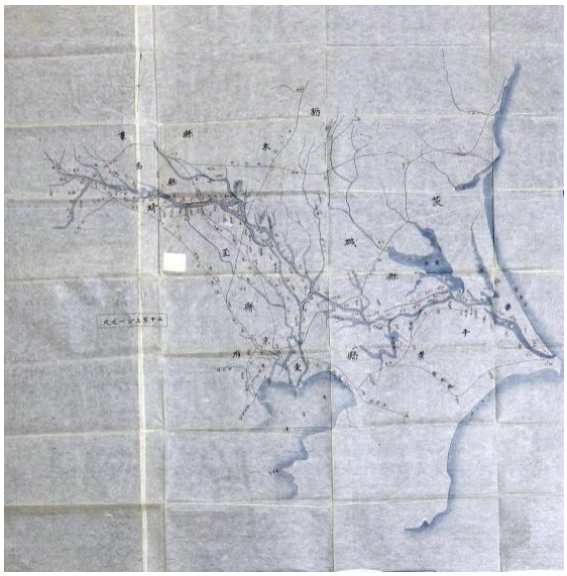
明治 5 年（1872 年）壬申地券発行の達が出されると、地券発行のために村方では地引帳とともに地引絵図が作成されました。「武蔵国比企郡宮前村地引絵図」（鈴木（庸）家 997）は、この際に作成され、県に提出した地引絵図の控え図です。特徴として、地番や区画、地目などを明確にしています。

明治 17 年から刊行がはじまった日本最初の地勢図『輯製二十万分一図』は、基図に伊能忠敬が作成した伊能中図が使われており、絵図から近代地図へと移り変わる途中の地図と言えます。

明治 30 年代に入ると、埼玉県では近代測量による河川図、河川台帳（実測図）がつくられます。近代化の速度を表しているといえるほど、わずかな期間で地図に急速な技術変化がみられます。

武蔵国比企郡宮前村地引絵図
（鈴木(庸)家 997）

Ⅳ　旅と地図

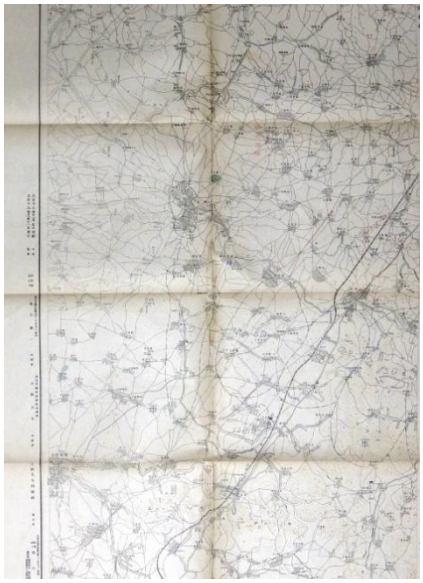


［関東地方鉄道路線図］
（中村(宏)家 273）

埼玉県内に初めて通った鉄道は明治 16 年（1883 年）に上野～熊谷間に開業した日本鉄道です。この「[関東地方鉄道路線図]」（中村(宏)家 273）は、東京を中心に関東地方の鉄道と河川、地名が描かれた手書き彩色の絵図です。地図情報から、明治 23～43 年頃に描かれたものと思われます。

大正から昭和初期になると、鉄道が全国に敷設され、各社は利用者を増やすため、路線周辺を鳥瞰的に描いた案内図を多く作成しています。代表的な絵師には、吉田初三郎（1884～1955）がいますが、武州松山（東松山市）を描いた「昭和元年武州松山附近名所図会」（林家 10234）は、その弟子、金子常光の作です。

Ⅴ　戦争と地図



遼陽沙河黒溝台会戦図 其七
（山崎氏収集 267）

地図は、軍事機密とされることもあります。特に、外国の地形を描いた地図を入手することは、戦時下では重要事項でした。

明治から昭和戦前期まで、主な地形図は国の軍隊である陸地測量部や海軍水路部が作成していました。なかでも、外国の地図を作成するために編成された臨時測図部は、明治 28～大正 2 年（1895～1913 年）に朝鮮半島・中国大陸・台湾の地図を作成しています。県内においても、このための測図手の徴兵が行われた記録が残っています（埼玉県行政文書 明 864 の 1-1）。日露戦争を描いた「遼陽沙河黒溝台会戦図 其七」（山崎氏収集 267）には、秋山好古（1859～1930）陸軍少将率いる「秋山支隊」の記載がみられます。ロシア軍の屈強なコサック騎兵と対峙した際の、隊の配置が描かれています。

Ⅵ　復興と地図

第二次世界大戦（1939～1945 年）によって、県内も多くの被害がありました。特に昭和 20 年（1945 年）8 月 14 日、熊谷市を襲った空襲は、県内最大規模の被害となっています。「熊谷復興都市計画図」（『戦災復興誌 熊谷市』s251 セ）に見えるように、熊谷市は国や県の支援を受け、戦後すぐに都市計画を掲げています。

また、東京都内においても、復興へ向けて使用された地図があります。昭和 22 年に、戦災復興用の応急都市計画図として日本地形社から刊行された『帝都地形図』です。もともとは大正 11 年（1922 年）から作られはじめ、後に関東大震災の復興用地図としても使用されました。「志茂［帝都地形図］」（地図 1039）には、埼玉県川口市も描かれています。

志茂［帝都地形図］（地図 1039）

外務省外交史料館

所在地	東京都港区麻布台 1 丁目 5 番 3 号
開館時間	月曜日から金曜日 10 時～17 時 30 分
休館日	土、日、国民の祝日、年末年始（12 月 28 日～翌 1 月 4 日）および臨時の休館日として公示した日
問合せ先	03-3585-4511

●概要・沿革

外交史料館は、わが国外交において歴史的価値のある記録文書を保存管理し、利用に供するとともに、『日本外交文書』の編さんを行う外務省の施設です。

昭和 46 年（1971 年）、外務省の一施設として開館し、同 63 年には、別館が増設され、展示室が別館に移設されました。そして、平成 23 年（2011 年）、公文書管理法に基づき外務省の特定歴史公文書等の管理を行う施設として、外務大臣の指定を受け、国立公文書館に類する機能と役割を担う外務省の公文書館となりました。

●主要所蔵史料

外務省では、創設当時から外交活動にともなう記録文書の重要性を認め、独自の分類方法を用いて執務書類の整理・分類を行い、記録を保存してきました。当館では、4 万冊に及ぶ「戦前期外務省記録」を所蔵するほか、沖縄返還や日米安全保障条約改定に関する記録を含む「戦後期外交記録」を順次受け入れています。これらの史料は閲覧室で利用することができ、レファレンスにも応じています。その他、幕末の外交史料集「通信全覧」「続通信全覧」、幕末期から第二次大戦終結までに締結された「条約書」や「国書・親書」「吉田茂関係資料」等を所蔵しています。また、別館展示室では、日本外交の足跡を示す代表的な史料を展示しています。現在は、日本スペイン交流 400 周年を記念して、特別展示「日本とスペイン―外交史料に見る交流史―」を開催しています（～平成 26 年 5 月 8 日（木）迄）。

日米修好通商条約
（重要文化財）

詳しくは外交史料館ホームページをご覧ください。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/index.html

埼玉県立文書館

所在地	さいたま市浦和区高砂 4 丁目 3 番 18 号
開館時間	火曜日から日曜日　9 時～17 時
休館日	月曜日、国民の祝日・休日 年末年始（12 月 29 日～翌 1 月 3 日） 特別整理期間（春・秋各 10 日以内）
問合せ先	048-865-0112

●概要・沿革

埼玉県立文書館は、埼玉県地域に関する歴史的・文化的に重要な記録資料を収集、整理、保存し、その活用を図りながら、県民共有の財産として永く後世に伝えていく機関です。

昭和 44 年（1969 年）、県立図書館に併設する施設として開館、同 50 年に文書館条例を施行して独立しました。同 58 年には、情報公開条例の施行にあわせて新館舎を建設、移転しました。その後、平成 4 年（1992 年）に館内に地図センターを開設、同 7 年には県史編さん室の業務とその収集資料の移管を受けるなど、収蔵資料と事業の拡充を果たしてきました。

●収蔵資料の概要

埼玉県の行政文書（公文書）・行政刊行物は、知事部局、企業局等から定期的な管理の委任や移管を受けており、現在約 17 万点を数えます。このうち、明治初年から昭和 22 年までの 11,259 点は国の重要文化財に指定されています。

一方、個人・団体から寄贈・寄託を受けた古文書類は約 380 件で、総点数は 100 万点を超えます。武家文書、名主家文書、近代以降の団体文書などのほか、埼玉新聞社撮影の戦後報道写真ネガフィルム約 53 万コマがあります。『新編埼玉県史』編さん事業の過程で収集された複製資料も移管され、整理のできたものから順次閲覧に供しています。

埼玉県行政文書

●地図センター

埼玉県域を中心とした地図・航空写真類の保存利用センターとして、全国でも稀少な存在です。埼玉県作成地図約 6 千枚、県内市町村作成地図約 1 万 9 千枚、国土地理院作成地図約 1 万 7 千枚、航空写真約 3 万枚のほか、河川法に基づいて作成された明治 30 年代からの河川台帳実測図等の特色ある地図があります。

詳しくは埼玉県立文書館ホームページをご覧ください。
http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/s28/

【展示資料一覧】

項目	年代			資料名	請求番号等
	和暦		西暦		
外交史料館×地図					
Ⅰ	嘉永	6	1853	嘉永六年ペリー艦隊の図	続通信全覧
	慶応	3	1867	江戸在留外国人遊歩規程下調図	続通信全覧
Ⅱ	明治	28	1895	日清講和条約(調印書)	条約書
	明治	28	1895	日清講和条約(附属地図)	条約書
Ⅲ	昭和	26	1951	対日平和条約受諾演説の原稿	吉田茂関係資料
	昭和	26	1951	硯箱	吉田茂関係資料
	昭和	26	1951	サンフランシスコ地図	吉田茂関係資料
Ⅳ	慶応	3	1867	パリ万国博覧会　博覧会場全図	続通信全覧
Ⅴ	安政	5	1858	日米修好通商条約	条約書
	明治	43	1910	清国国書(在本邦清国公使胡惟徳解任ノ件)	国書・親書
埼玉県立文書館×地図					
Ⅰ	嘉永	6	1853	万国輿地全図	平川家 1857
	弘化	4	1847	万国山海輿地全図	井上家 1096
	弘化	4	1847	坤輿図識 序、目録、巻一(亜細亜誌、亜細亜誌附録)	奥貫家 2869
	弘化	4	1847	坤輿図識 巻二、巻三(欧羅巴誌、阿弗利加誌)	奥貫家 2872
	弘化	4	1847	坤輿図識 巻四、巻五(南北亜墨利加誌、豪斯多辣利誌)	奥貫家 2875
	弘化	4	1847	坤輿図識補 序、目録、巻一(輿地総説外)	奥貫家 2870
	弘化	4	1847	坤輿図識補 巻二(亜細亜誌補、米利幹誌補)	奥貫家 2871
	弘化	4	1847	坤輿図識補 巻三(欧羅巴誌補)	奥貫家 2873
	弘化	4	1847	坤輿図識補 巻四(本編中所収人物略伝)	奥貫家 2874
Ⅱ	嘉永	6	1853	[嘉永六年渡来黒船図](嘉永6年7月写)	八塩家 1951
	嘉永	6	1853	[嘉永六年カリホルニヤノ舶久里浜ニ上陸書簡受取渡之図]	八塩家 1952
	安政	2	1855	北亜墨利加合衆国測量船より差出候横文字和解(久世大和守殿御渡)	池田氏収集安部家(岡部藩主) 24-2
Ⅲ	明治	5	1872	測量新式	小林(正)家 2088
	明治期			[字訳絵図雛形]	長谷川家 833
	明治	6	1873	武蔵国比企郡宮前村地引絵図	鈴木(庸)家 997
	明治	13	1880	埼玉県武蔵国北足立郡浦和駅 [迅速測図原図]	迅原 491
	明治	14	1881	測絵図譜	地図 867
	明治	21	1888	東京 [輯製 二十万分一図]	井上家 597
	明治期			大里郡河川台帳正本	埼玉県行政文書 A2005
	明治期			渡良瀬川台帳	埼玉県行政文書 明5821

項目	年代			資料名	請求番号等
	和暦		西暦		
埼玉県立文書館×地図					
Ⅳ	明治期			［関東地方鉄道路線図］	中村(宏)家 273
	明治	36	1903	［東京京都間鉄道及旅館案内絵図］	田中家 570
	文化	12	1815	［奥州道中案内］	加藤家 2385
	明治期			［引札］(福の神、深谷発汽車時間表付)	安部家(旧宝珠院) 282
	昭和	元	1926	昭和元年武州松山附近名所図会	林家 10234
Ⅴ	大正	15	1926	遼陽沙河黒溝台会戦図 其七	山崎氏収集 267
	明治	28	1895	徴兵適令者臨時測図部測図手雇員採用セラレタル者云云 陸軍省照会	埼玉県行政文書 明864の1-1
	明治	29	1896	国府津村［国府津附近秘密図］	山崎氏収集 98
	大正	8	1919	新世界地図(東京朝日新聞附録)	高橋(周)家 2944
Ⅵ	昭和	34	1959	熊谷復興都市計画図 (『戦災復興誌 熊谷市』)	s251 セ
	昭和	22	1947	復興熊谷案内	県史CH本 187-1
	昭和	22～33	1947～1958	熊谷都市計画復興土地区画整理事業	埼玉県行政文書 10888
	昭和	22	1947	志茂 ［帝都地形図］	地図 1039
	昭和	31	1956	米軍撮影空中写真 M316-21	空中 4784
	昭和	23	1948	郷土地図 埼玉県(31万分の1)	新藤家 598

【主な参考文献】

『旧条約下に於ける開市開港の研究』(大山梓、鳳書房、1967 年)

『築地外国人居留地』(川崎晴朗、雄松堂出版、2002 年)

『プリンス昭武の欧州紀行―慶応 3 年パリ万博使節』(宮永孝、山川出版社、2000 年)

『博覧会の政治学 まなざしの近代』(吉見俊哉、講談社、2010 年)

『明治期作成の地籍図』(佐藤甚次郎、古今書院、1986 年)

『地図と絵図の政治文化史』(黒田日出男ほか編、東京大学出版会、2001 年)

『帝都地形図 1922-47』(井口悦男編 、之潮、2005 年)

『絵図学入門』(杉本史子ほか編、東京大学出版会、2011 年)

『外邦図―帝国日本のアジア地図』(小林茂、中央公論新社、2011 年)

【協力者・協力機関】　順不同・敬称略

小河原恵市　福宿光一　攻玉社学園資料室　淀川資料館

埼玉県立文書館・外務省外交史料館共催展示

地図アラカルト　世界と地域

【編集・発行】　埼玉県立文書館

〒330-0063　埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-3-18
TEL：048-865-0112　FAX：048-839-0539
http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/s28/

外務省外交史料館

〒106-0041　東京都港区麻布台 1-5-3
TEL：03-3585-4511／FAX：03-3585-4514
http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/